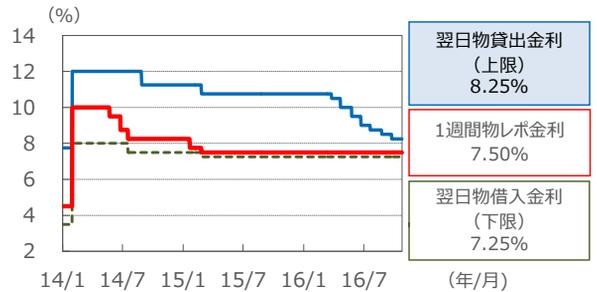


今日のトピック トルコは金融政策を据え置き トルコリラは安定を模索へ

ポイント1 金融政策据え置き 8か月ぶりの据え置き

- トルコ中央銀行（以下、中銀）は20日、主要な政策金利である1週間物レボ金利を7.50%に、翌日物貸出金利を8.25%に据え置きました。翌日物貸出金利の据え置きは、今年2月以来8か月ぶりとなります。
- トルコリラの対ドル相場が過去最安値を更新していたなかで、中銀は、「足元の為替レートの動きやその他のコスト要因がインフレ率の改善を制限しており、慎重なスタンスが必要である」と説明しました。

【各種政策金利】



(注) データは2014年1月1日～2016年10月24日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 トルコ政府が通貨安を懸念 為替が安定すれば利下げ再開も

- これまでエルドアン大統領をはじめ政府関係者は一貫して利下げの必要性を主張し、中銀は政府の意向に沿って今年3月から利下げ（翌日物貸出金利の引き下げ）を続けてきました。しかし、今回は政府関係者から利下げ見送りを示唆する発言が出ていました。
- 今月の声明文では、今後の金融政策は「データ次第」とする文言が追加され、金融政策の方向性は示されませんでした。ただし、景気の弱さが見込まれるなかで、政府が利下げを志向し、為替レートが安定すれば利下げは再開されると見られます。

【トルコリラ】



(注) データは2014年3月1日～2016年10月24日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 トルコリラは安定を模索へ

- 今回の金融政策決定はトルコ政府の通貨安に対する懸念の表れであり、政府が早い段階で通貨安を警戒する姿勢を見せたことは前向きに評価できます。市場も金融政策決定のアナウンス後、株・債券・通貨のトリプル高で反応しました。トルコリラは当面安定を模索する展開となりそうです。

ここも
チェック! 2016年 9月23日 トルコの金融政策 (2016年9月)
2016年 8月24日 トルコの金融政策 (2016年8月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。